

9月議会報告

5659人の署名で請願
それでも議会は不採択

～窓口支払い問題進展せず～



いながき



いとう

平成24年度一般会計決算は、歳入総額219億6,815万8千円、歳出総額212億884万6千円で、形式収支7億5,931万2千円、実質収支でも7億3,316万4千円の黒字となりました。政力指数は0.84、経常収支比率や公債費負担比率等の主要財務比率も健全でした。

24年度一般会計補正予算は、10億4,400百98千円を追加し、歳入歳出総額を189億1,972万2千円。財政調整基金に7億2千9百万円の積み増しを行った他、道路の維持・補修・改良等の事業に。

【24年度決算討論要旨 稲垣】

東日本大震災と福島原子力発電所の事故から2年半、被災地では道路や橋、港湾の整備も進み、ガレキの処理のメドもついてきました。しかし、高台移転をはじめ“新たなまちづくり”の姿は未だ見えません。とりわけ、福島では生活再建と将来への不安は解消されず、除染作業も遅れています。また、原発事故は収束せず、汚染水問題もコントロールされているとは言い難い状況にあります。

こうした中、第5次吉川市総合振興計画のスタートの年である24年度は、重点テーマに沿った事業が進展しました。市民改革クラブとしては、今後の市政への要望と期待を明らかにし、具体的対応を求めるとともに、『市指定医療機関除外問題及びフロリデーシオン推進について』、市の説明が極めて不十分であることを指摘したうえで、24年度決算に同意しました

重点テーマ、計画に沿った事業の拡充・推進がみられた

1 防災対策 防災計画の見直しと避難所4カ所に防災倉庫を整備。2 学校整備 美南小学校の施設整備をはじめ、北谷小体育館の耐震補強・大規模改修工事並びに、栄小学校体育館の耐震補強と大規模改修設計を実施後、今年3月補正で繰越明許費を計上しこの夏工事が完了。3 子育て支援では、民間保育所が2園整備され、140名の受入れにより待機児童が解消。延長保育や送迎保育事業もスタート。4 都市基盤整備では、吉川美南駅が開業。県道葛飾吉川松伏線の開通、越谷・吉川線については、大場川から県道加藤平沼線へつなぐ道路用地買収が始まった。5 新庁舎建設については、庁舎建設の基本的方向性が明らかとなり、建設基本計画へとつなぎました。

さらなる「行財政改革の推進」「市政の透明化」を！

『行財政改革の推進』・『開かれた市政』実現の為、人材の配置・活用を図り、財政措置を講じるとともに以下の具体的課題解決へ向け、迅速かつ実効性ある取り組みを求めました。

①新庁舎建設 スピード感をもって、建設基本計画の実現を図る②防災対策 地域の総力を結集し、防災対策、防災力強化を迅速・適切に整備推進する③少子高齢化対策 待機児童の解消及び就労支援に繋がる家庭保育室への支援拡大。5大疾病対策と介護・認知症予防。地域包括ケアシステムの整備促進。④保健・衛生対策 『市指定医療機関除外問題解決』の為、適切な措置を講ずる。フロリデーシオン推進活動の即時中止。⑤環境対策 ゴミの減量・分別・資源化推進と小松川工専地区の産廃業者対策。

(いながき記)

いながき
いとうの

9月議会報告

10月5日(土)午前10時00分～
おあしすセミナールーム

どなたでも

いながき 茂行 栄町782番地1C-1101 TEL 983-1628
Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com
いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&FAX 983-1117
Eメール itoh72@nifty.com
*市民改革クラブのホームページは いながき茂行のサイトと
統合しました <http://www.inagaki-s.com>

市指定除外問題 なぜ放置しているのか いながき茂行

大久保・石井クリニックが市の指定医療機関から除外された問題について、6月議会に引き続き質問しました。

市は、両医師が吉川松伏医師会から除名されたことを昨年の10月に知りながら、直接確認することもせず、市指定医療機関から外したことも伝えず、事態收拾への働きかけもしていません。

予防接種等の委託については医師会との契約ですが、両医師が除名により市指定医から外れ、委託が出来なくなれば大きな混乱を招くことになり、当然、“異常事態”は予見できただけです。

市の対応と説明は、『不自然』。なぜ何もせず、放置してきたのか改めて問いかけました。

市も紛争関係の当事者 動ける状況にない

6月議会で、市長は『私はこの事態を收拾する。汗をかくことはやぶさかではない』と明言しました。では、この3か月間どう行動されたのかとの質問に、『6月19日、除名された医療機関から越谷簡易裁判所へ民事調停事件の申し立てが起こされ、当市も紛争関係の当事者となった為、收拾に乗り出せる状況にはない』と答えました。

緊急避難の策は 頑なに拒否

『今まで通り、大久保クリニックで予防接種や子宮ガン検診を受けたい』という乳幼児や小児を抱える母親や婦人方の切実な声にこたえるため、緊急避難として『個別契約』を結ぶべきとの再提案に対し、『除名された医師と個別契約することは、

医師会との信頼関係を損なうばかりか、保健事業にとどまらず他の事業にも影響がある。リスクは避けなければならぬ』との答弁を繰り返しました。

また、「従来通り予防接種や子宮ガン検診を受けられるよ

う求める」要望書や5、659人余の請願署名については、『真摯に受け止める』としながら、文面に事実誤認があるなどと述べました。

子育て支援は産科・ 小児科との連携が大事

市は、『子どもを産み育てられるまちづくり』を目指し、病児・病後児保育や子ども医療費の助成、保育所の運営等、子育て支援事業を拡充してきました。子育て支援の基盤は、市内の産科・小児科との連携・協力が大前提だと考えます。

八潮市では新しく選ばれた市長が、産科病院の誘致に全力を尽くし、実現したいとしています。もつと医療機関やそこで働く人々を大切にし、信頼関係と安心できるまちづくりにつとめてほしいと思います。そのことが、一番のリスク管理ではないでしょうか。お母さん達や赤ん坊に冷たい仕打ちは速やかにやめてほしいと思います。

9月議会は9月2日から9月24日まで開催。23議案を全て可決。

主な議案は●市条例の一部改正（介護福祉総合条例、地区計画区域内における建築物の制限に関する条例）●市道の路線認定及び廃止●損害賠償の額を定めることについて●24年度一般会計・特別会計歳入歳出決算の認定●25年度一般会計・特別会計補正予算について。

一般会計補正予算

歳入歳出に10億4千4百万円を追加し、総額を189億1千9百万円とした。歳出の主なものは、財政調整基金に7億2千9百万円の積み増しを行った。事業では、児童手当交付支給金返還、障がい者の更生援護、道路の維持・補修・改良、公園維持管理、用水路整備等。自動車用充電器設置事業は、おあしすに電気自動車用の充電器を設置、東埼玉資源環境組合負担金△4千4百万円は、東京電力からの賠償金。

23年度決算認定

具体的課題を指摘。今後の実効性ある取組を期待し認定に同意（P1 参照）

一般質問

① 市指定医療機関除外問題の解決を②フロリデーシオン推進活の中止を（稲垣）

① 吉川「チャームアップ作戦」の展開—シンボルマーク、みどり。拡幅堤防の活用。②産婦人科クリニック問題（いとう）

乱暴な窓口ストップ 妊産婦にしわ寄せ

いとう 正勝

これは「管理危機」だ

二つの医療機関が

市の指定医療機関からはずされて半年が経過。除名されたクリニックを同等に扱えば、吉川・松伏医師会の協力が得られなくなる恐れがある。そうなれば多大の影響が出かねない。市は判断の正当性を一貫して主張。しかし事態收拾のメドはなく、しわ寄せ解消の道筋は見えない。

事実上、唯一の産婦人科医院。24年度ここでの定期予防接種は2,229件。区

域外扱いとなった25年4月以降5ヶ月間、申請件数はわずかに158件。当該機関への影響とともに弱い立場の母親たちへのしわ寄せ、困惑の姿が浮かんで

くる。「このまま放置することはできない。9月議会ではこの事態はあまりにも乱暴な、誤った行政運営による失政が招いたもの。「管理危機」ではないかとの姿勢で臨んだ。

子育ては重点施策 胸を張れる対応か

「子育て支援」は市政の柱「医療費の負担ゼロ」を中学生まで広げるとともに平成19年には窓口で証明書を見せるだけで受診できるように前進をはかった。定期予防接種も同じ扱いとなった。それをいとも簡単に放棄。市は答弁の中で予防接種は医師会との契約。2医療機関は除名で構成員でなくなつた。混乱を避け市民の健康を守るにはこの選択がベストだとの考えを繰り返した。

「子育て支援」は後退させない。その信念があれば、行政の取り組みはもっと説得力を持つ対応になつたのではないか。医師会側や除名の2医療機関について市は打開の話し合いもし

ていない。大事な判断を現場を無視して市長、副市長、部長の3人で決めている。情報の公開も説明責任も果たしていないと指摘。市民や見守る職員たちに胸を張れる取り組み、行為なのかと重ねた。

「裁判」は失政 医療は共有財産

市民の「福祉の増進」が使命の公共機関が、行政運営をめぐって裁判の被告になる。40年、50年。見識と業績ある医師を相手に裁判を受ける。異常であり、そのこと事態が「失政」を意味していないか。医療は安心の基盤であり、市民の「共有財産」。そのセーフティネットが揺らいでいる。こうした見解を示すとともに「調停」を一つ引きつけ、一度原点に戻って出直しをはかるべきだと直言した。「調停」は話し合いで收拾ができないか、相互にさぐり、働きかける場。10月の2回目の調停作業にどう臨むのか。市長の英断の発揮をと促しました。

危機管理

激動。不確実で予測の難しい時代。国も企業も地域も個々人も様々な「リスク」に日常的に直面する。どう向き合うのか。「危機管理」を迫られた時手法を間違えると一転して管理による危機にさらされる。吉川市の今回の裁量権行使はその「管理危機」の典型になるだろう。美南に移り住んだ若いお母さんが赤ん坊を抱いて議会の本会議、請願審査の委員会を傍聴。▽いくら聴いても分からない。▽医師会が協力しないって本当？▽出産したなじみの先生で接種も一緒に済ませたい。と話していた。同じ委員会を傍聴していた大久保医院の先生が外野席から大きな声で一喝する、そんな一幕もあった。信頼関係が崩れ、思わぬ事態や損失も起こりかねない。道に迷った時は「引き返す」。重大なリスクに遭遇する前に、まず4月以前の状態に戻す。期限を切つて收拾に乗り出す。その経緯を全面的に公開する。医師会と2医療機関には公器であることをしっかりと自覚してもらいたい。(いとう)



子育て支援 大規模調査へ 動く

新駅東口開発 全地権者へ説明会



変わる

子育て支援で全国一斉に

これは女性の社会進出。働くお母さんたちの支援が狙い。この10月から11月にかけて全国一斉の大規模な世論調査。政府は消費税引き上げに伴う昨秋の三党合意で子育て支援の拡充についても実施を確認。27年度から児童手当の見直しや待機児童の解消、学童保育の6年生までの延長、幼保一体・認定子ども園の推進なども目指している。これに先立ち現状の分析、評価。今後の施策への期待や方向をさぐるために行う。

吉川市では就学前と就学後の保護者各1,500人を対象にそれぞれ意向調査。市独自の送迎バスや養護児保育などの質問項目も加え、30項目前後の内容。自由記述欄も。市では9月27日新メンバーによる児童福祉審議会での内容を説明。年明けには速報値を踏まえて「子育て支援」の拡充策をまとめ審議会にはかる方針です。

美南駅東口周辺地区開発

9月25日から29日にかけて4回。市長も出席し地権者(299人)への事業計画説明会を開催。第1回目は中新田自治会館に30人余が参加。事業計画の概要は、▽施行者は吉川市▽面積60ha▽施行期間27年度から10年▽平均減歩率約50%(公共減歩22%、保留地減歩28%)▽総事業費174億円。内訳は▽保留地処分金103億円▽国庫補助金48億円▽市単独費21億円など。▽軟弱地盤のため2年程度の「土盛」が必要で整地費31億円を見込む。▽26年度中には都市計画決定▽27年度事業開始をめざすとの方針を示した▽この説明に対し、「開発のコンセプトがみえない」「エリア内は農地が大半、移転は極力しないように」「民間の資金や知恵を」等の意見も。市の責任施行であり、地権者の合意がまずは第1の関門です。

新庁舎と吉川橋

新庁舎は8月11日に設計業者(6社)による公開のプレゼンテーション。審査の結果、東京の「佐藤総合設計」に。9月市担当者と設計業者、レイアウトの岡村製作所の3者による協議開始。年度内に「基本設計」。公開。この間に庁舎の位置、階数、内外のレイアウトも順次固まることに。パブリックコメントを求めた上で「実施設計」の段取り。一段の早期完工も検討課題に。

吉川橋は11月に仮橋着工。一年後に使用開始。9月29日地元説明会。歩道含め幅9m。吉川橋から加藤・平沼線(25m道路)の全線開通は31年度完成の見通し。大場川から先(390m)は吉川市単独事業。用地買収62%済み。中央土地整備事業は国の予算のはりつきの遅れも。

編集後記

『大久保クリニックで公費予防接種と公費助成の子宮ガン検診が受けられるように求める請願』が議会でも不採択となった。本会議や委員会での質問、審査内容からすると、不採択の理由は①請願の件名が不正確②趣旨の一部が誤解を与える表現③係争・調停中の案件等。公費予防接種は、『区域外接種』の手続きをすれば受けられるし、市が指定医療機関から除外した訳ではない。市は医師会と契約しており、医師会を除名されたことで契約できなくなつた、という。そう言い切れるのか。市の保健カレンダーやホームページでは、市指定医療機関リストから外し、『受診できなくなる医療機関』として、大久保・石井クリニックの名前はあるが、『区域外接種』で受けられずとは書かれていない。問い合わせがあれば、答えたい。市の指定医療機関を勝手に市指定医療機関を決めて認めるわけではない。最終的にそれを受けられるのは吉川市である。予防接種や子宮がん検診を受けられるようにしてほしい。『議会』は市民の願い(願意)を『議会』はなぜ理解出来ないのか。方々か本当に困っており、この異常事態を解決してほしい。議会としても受け止めてほしいとの請願がある。痛みを共有し、寄りそうのが『議員』の立場では。(いながき)